

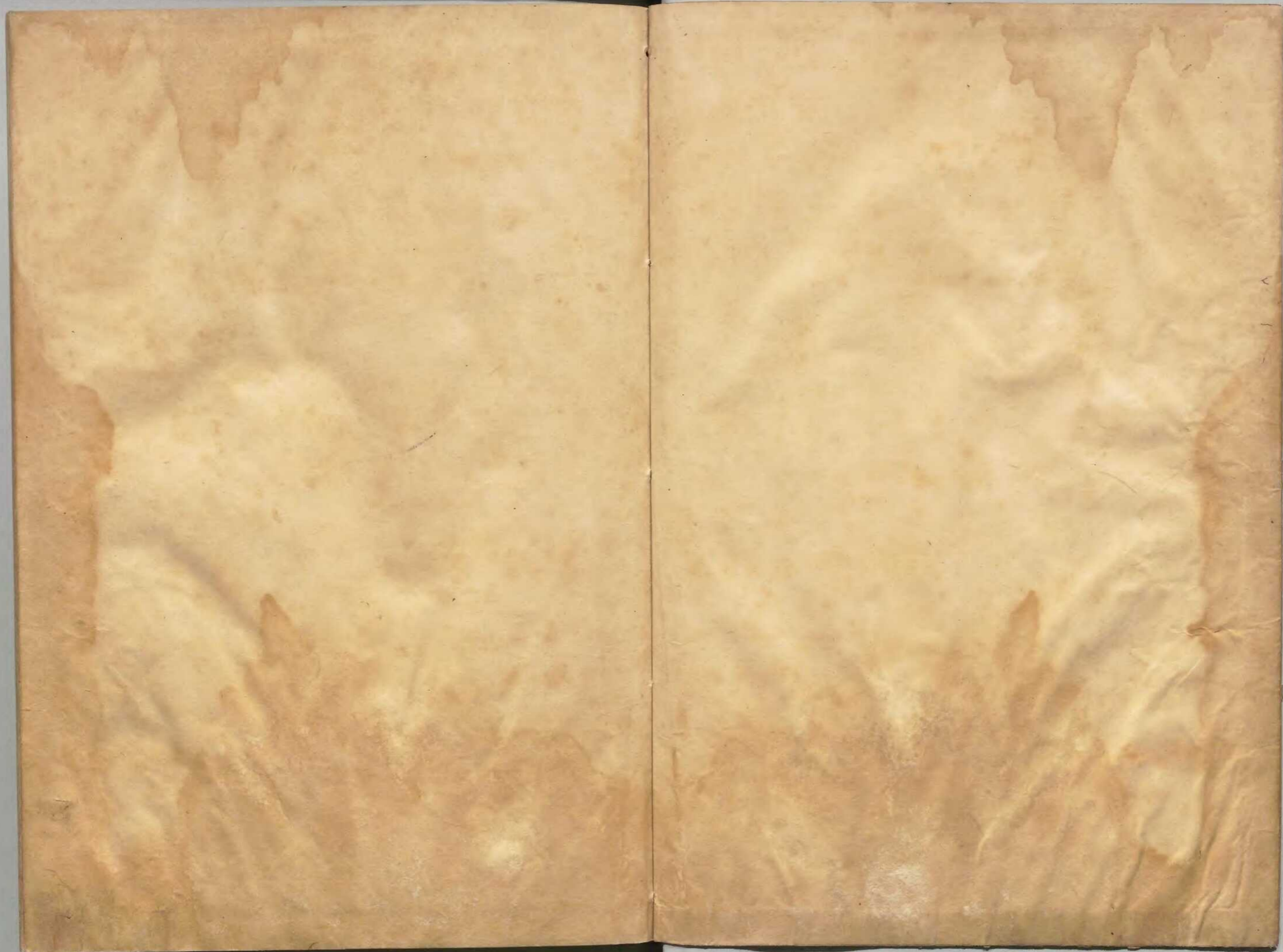
199

寛永諸家譜

醫者
八卷之内

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(199)	
函號	特	76	1





竹田

上池院

秀三

感音院

意安

為益

寛永諸家系圖傳

藤原姓

竹田

● 公季

九条右兼相師 弟公此息なり

因院 右政大臣 仁義公と号す

真成

公成

淺草文庫

真季 まき

公真 こうま

通季 とうき

正三位 左衛門督
持中納言 頭
母 隆方女 たかむねのむすめ

公通 こうとう

按察使 正二位 权大納言

母 忠教卿女 ちゅうけうのむすめ

真宗 まそう

坊城と号す 正三位 内大臣
母 通基朝臣女 とうきあそひのむすめ

公經 こうけい

一条相承と号す 牛車右衛門
右大将 太政大臣 母 氏

基家卿女

正定

大弁 義人 又竹田中納言
清水谷少将号 后二位 民部卿
中納言 母中勢少捕 后原乃
教良女

真持

別 皇后宮大夫 正二位 権大納言
母大納言成親女 法名親光

正蔭

正三位 皇后宮大夫 母中納言
大左司公通女

真時

冬儀 母山陽右二府女

宗季 むねすけ

公永 きんね

中将 ちゅうじょう

女子

公兼 きんね

正二位 せいじに

真季 まき

正二位 せいじに

参议 さんぎ

公廣 きんひろ

真次 まじ

季賢 すけけん

定通 さだつう

定季 さだすけ

透季 とほすけ

慶圓 けいゑん

昌季 まさすけ

山城守 やましろのまもり

武勇強力 ぶゆうきやうりき
服中 ふくちゆう
瞳二門 ひとみにんもん

あひ後帝融院此御宇延安二年
醫入金為道士一子之歳小一
大明入金為道士一子之歳小一
此名と改く明室と号す道士一
ありて醫と号んで牛黄園等れ
稱方と文志のこたうと道士一女子
ありて改く明室と号す道士一
大明を祖号帝の皇子産死
よ道一少き一勅命ありて昌を

脈と珍茶一劑と投てく活命事と
均皇子降誕と帝其の功と樹と
安國云一封と
永和四年醫家此秘訣をいひり
洞人形等と得く本別り飯

定善

善秀

直考ちうこう

定後ちやうご

瑞符すいふ

因泉いんせん

善考ぜんこう

應永十九年おうえい じゅうくわん故小松院こまついん療治りょうぢ此こゝ賞しょう

法眼ほっがん叙じゆ

日二十八年にちにじゅうはちにん又法またほっ叙じゆ

善祐ぜんゆう

昭考しやうこう

法指ほっしゆ 杖義宗じやうぎそう後ご

長祿二年ちやうろく じにん大聖院たいせいいん沖おほ病びやう悩なや平へい後ごの

賞しょう法眼ほっがん叙じゆ

應仁二年おうえに じにん義政ぎせい病びやう所しよ平へい後ご此こゝ賞しょう

法ほっ叙じゆ沖おほ袖判そではんあり

文明十九年ぶんめい じゅうくわん義政ぎせいの法ほっ叙じゆあり

字の心より名と定感とありし
と見みらるる字と除

見透

知足庵

宗考

改く定悟と号す

定雅

友次郎

女子

病舎丸

高定

茶師寺

能舞

大寺寺

りい

秀

改く定法と号

松来院月海

之定

山城守

梅頃丸

女子

女子

女子

女子

定業

周春

定瑤 あきほ

法眼 清曇より光法中より号す

定括 あきか

法中 蒿庵

女子

周光 あきみつ

秀庵 あきひら

周挑 あきちか

女子

梵松 あきまつ

定加法中 雄養光英

元禄二年十月十一日法眼一叙

正親町院痢疾沖年没

ついでに

とんや

天正九年三月廿一日法中りかんに叙きよす

とんやきんとんやかとんやか

とんやかとんやかとんやかとんやかとんやか

かゝのどそとんやかとんやかとんやかとんやかとんやか

女子

女子

核子こ代丸しろ

柏かしわ福丸ふくまる

女子

定さだ白しろ

定さだ宣のたま

法り中かん

長九年八月廿五日法り中かんに叙きよす

同十一年四月五日法眼フシ一叙一
同十三年四月十六日法平フヘ一叙一

見孝ミケ

永固寺エイコウジ

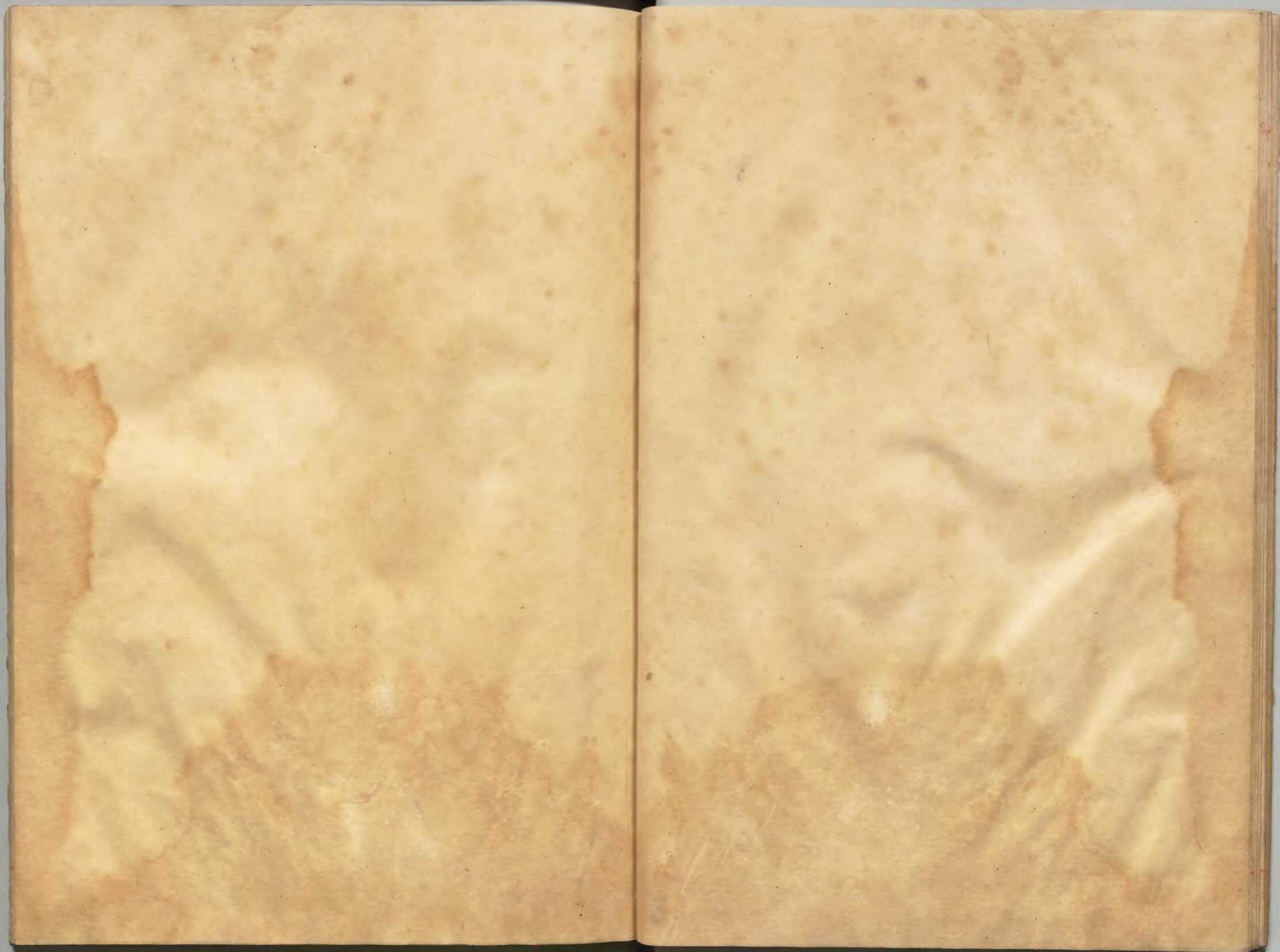
定賢テイケン

考子家コウシカ

清安セイアン

定昌テイチャウ

宮内ミヤウチ



九佛くぶつ

克角くかく

清和源氏
坂さか

坂三郎

和列人われつじん

杉光五世の孫まきみつごのまご

付同叔付中絶このあたりにあつた

くわくや ちよ かに ちよ
くわくや ちよ かに ちよ
くわくや ちよ かに ちよ
くわくや ちよ かに ちよ

十佛ちふ

んぶ まややん
氏部卿法しへうけいほう
くわくや ちよ かに ちよ
博子はくし ぬん ちよ かに ちよ
か人をかじん 醫術いじゆつ 且かつ 和歌わか と ちよ
せりせり 光明院くわうみやういん 浄じやう 字じ
氏部卿しへうけい 法ほう 下げ 叙しよ

たの ちよ かに ちよ
氏部しへう 重じゆう せり ちよ かに ちよ
ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
平生へいぜい 肺はい と 診しん 服茶ふくちや と 鉢はち

士佛しふ

んぶ まややん
健けん 叟そう 惠ゑい 勇ゆう
氏部卿しへうけい 法ほう
義ぎ 倫りん 義ぎ 満まん と 義ぎ 持ぢ けい ちよ 健けん 叟そう
と 呼こゝろ 士佛しふ と 稱なづ せらる 士し 字じ の 明あ ちよ
十じゆ 一いつ 十佛しふ

日東

次とりけりての儀なり 和歌とりて
業少りしむる 醫術と多び神
通
後光厳後醍醐後小松之朝は
詔を以て醫術を廢し
まふ所の功と世にあはれんが
なりしをたるとは後乃号を賜
し居れり

起系

旭禅師
東福寺常照菴住持

祖流 民部卿法印

義持よりほつて服業をた
るに貴他より異なり 醫術
をけりて 日東禅師の室
に入る 冬 禅省 候と
なり

大勇

諱ハ子勇

氏部卿法下

幼少し日東禅師より留るる

のり民と療を向り功あり義量

義教よりほびる服業を敏と

嘉邦

瀧社

氏部卿法下

大徳寺表叟和尚より留るる法

うとよとひく得可あり

進月

宗措

氏部卿法下

進月いさご祿保より留るる

嘉邦よりとまひてらるる養叟和尚

一獨せり法律とりし

大徳寺より宗措より留るる

此世よりけかく進月去湯実傳れ
 二大老一洗耳一常一系禅
 名々ゆたれ自ら得るは後義政
 けかくるもいへるは世に
 世々地の業局とほつるる醫術
 妙わけくはふる守
 永正五年疾一りく力體
 白ゆきと

同日九年四月八日一死

定國

竜護 民部卿法中
 義尚と一い義澄一りく業局と
 けくさる

光國

紹胤 民部卿法中
 義晴一りく一候一不

頼りよと沖菜と烟進

惟天

貴祐

民部卿法中

信長ととび秀吉より伝ふ

長三年八月八日又死す

六十六

忠存

法中

法常坊と号す

勝乾院

城列候殿より伝ふと醫術と専ら

重勝

坂千代

淳己

慈母半雪と号す

忠順

勝乾院

以策

法眼少貳

久伯

昌伯

三物

壽之

幽玄

大善卿法印

寛永六年

將軍家清胤疾少時

得福

同七年

右近衛殿清石例乃

將軍家

月十四日

何候いさご一い去こくく山やま慈あまの信の乃の津つこことと
了りあありり

同十五年十二月廿七日 信の了り

法の系けいに叙じゆしし
同手どうて銀ぎん地ち五百石ごひやくいしとと并ならびびしし

松まつ碩しやく

長なが壽しゆ 法の橋はし

三十一歳さんじゅういちさいにに死しすす

春はる也なり

友とも世よ 法の眼がん

寛永十七年 勅しゆくすすにに法の眼がん小こ

叙じゆすす

同年

將軍しやうぐん家けをを承うけ継つぎすす

玄げん雪せつ

元げん周しゆ

上ら せん ちり こ よまん ねい ちり
美を 竿 者 子 たり 美 三 是 とも ちり
く 子 ちり

寛 胤 くわん ねん

定 智 ちやう ち

民 部 卿 法 中 えん ぶ けい ほう ちゆう

早 世 さう せい

洞 菴 どう かん

宗 僊 そう せん

民 部 卿 法 中 えん ぶ けい ほう ちゆう

考 又 長 十 二 之 年 七 月 八 日 伏 見 城 中 こう 又 ちやう じふ 二 之 ねん 七 がつ 八 日 伏 見 城 ちゆう

~~~~~

大 権 現 下 祥 福 たい けん げん じやう ぷく

同 十 月 駿 府 中 どう じゅう がつ 駿 府 ちゆう

大 権 現 下 及 依 波 書 中 たい けん げん げん 及 依 波 書 ちゆう

右 徳 院 殿 下 一 行 人 みぎ 徳 院 殿 げん 一 ぎやう じん

醫 師 下 一 行 人 い 師 げん 一 ぎやう じん

く け 子 由 一 行 人 く け 子 由 一 ぎやう じん

右 徳 院 殿 下 一 行 人 みぎ 徳 院 殿 げん 一 ぎやう じん

~~~~~

大 権 現 下 始 一 蘇 公 園 八 上 池 院 家 傳 たい けん げん げん 始 一 蘇 公 園 八 上 池 院 家 傳

乃方ちり是と調をいふ
家一とてと茶材をいふ
とふりつ候製をいふ
元和入る五月七日少死を感得八

桂叡 けいげん

玄昌 げんちやう 民部卿法中 みんぶしやうほうちゆう

元和三年

名徳院殿と作 なとくゐんゑん

女子

同九年八月六日歳女八小く死す

宗説 そうせつ

民部卿法中 みんぶしやうほうちゆう

寛永元年十一月

名徳院殿と作

將軍家と作

同十一年十二月

將軍家の台令下りりて民初郷

法下り一叙

祖光

字ハ名忠常一照菴

女子

乙女

寛永六年

將軍家一

同十八年

竹千代君一

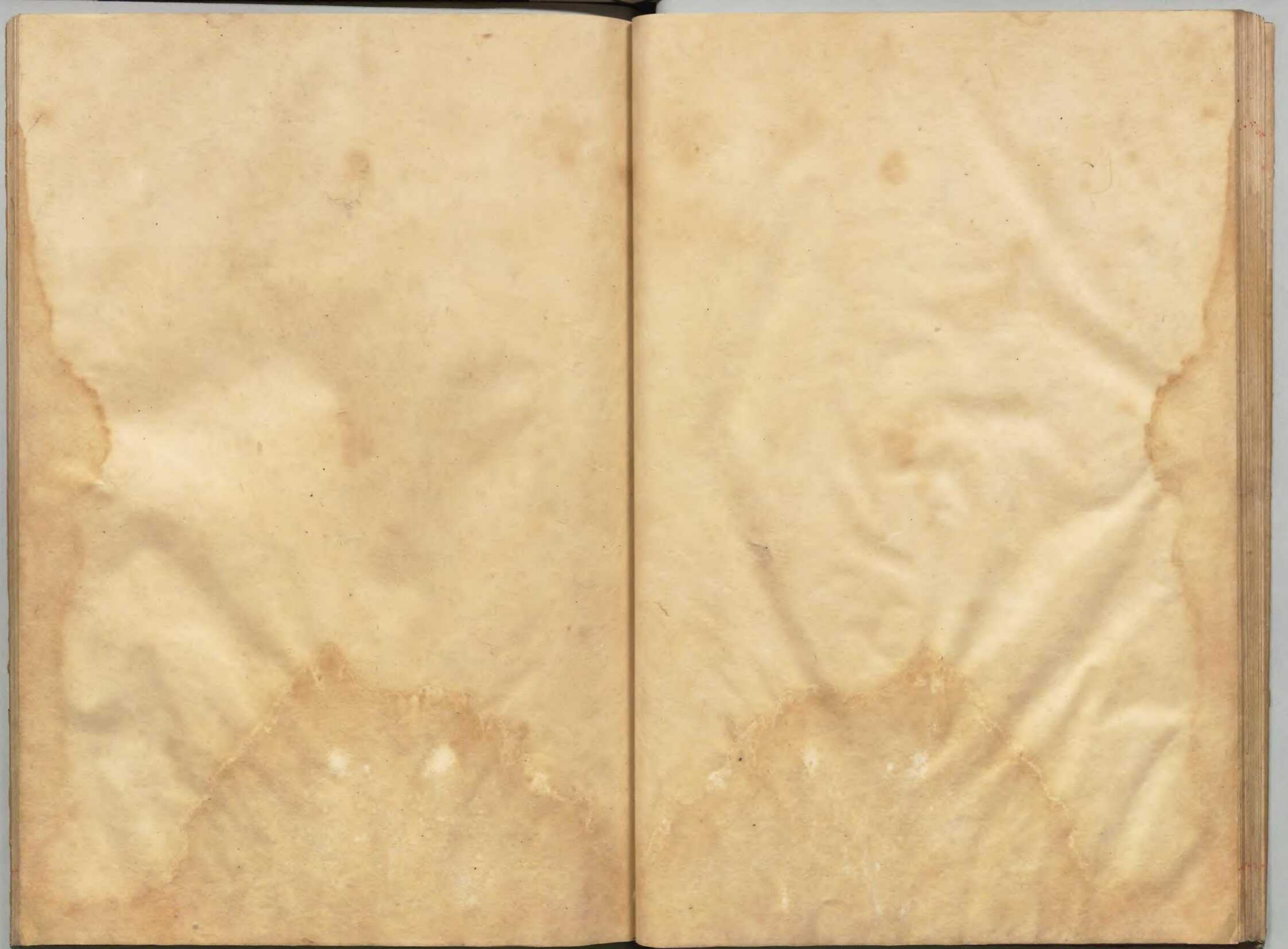
壽仙

洞伯

某

田部三郎

家乃紋之松梗



●
士佛

民部卿法印
上池院礼社なり

坂

士佛の上り系圖上池院の下り見えたり

起宗きそう

祖胤そいん

民部卿法みんぶしやうほふ

上池院かみいけいんの家いへといはく

淨快じやうかい

二位法にいほふ

幼ちひからとし穎えい悟ごのしとしては業ごうとしてはし

深ふか醫いのしとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

兄あに起き宗そうとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

としては醫い術じゆつとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

淨じやう快かい益えき法ほふとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

一いちとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

終つひとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

反はんとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

切き業ごうとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

祿りやく免けん院いん淨じやう快かいとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては

効きうありとしては佛のしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

主しゆ後ご又また法ほふとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては

叙ぎよとしては佛ぶつのしとしては術じゆつとしては術じゆつとしては

淨法

宮内卿法平

將軍義尚不例此

平儀と直濟方と撰と

淨運

法平

博學ありてとて門と醫術より精

後柏原院より浄業と師と

明應年中大明より入る張仲宗が方術

と傳ふ朝より以て醫名益彰る

新撰方之十一卷と撰と

山名因幡守醫術と嗜浄運より其より

方書とて心ふれより浄秀

撰と心ふれは寶物と増補とて是に

ありて續添臨終秘要抄より名はく

浄運大明より入傳り此より丹青此

具と少らて月多る故り符野法眼
え位をくく釋迦れ像と忠かりめ
漢戦れ法涼ちり一寄附と

松頃

松茂

淨見

法中

醫術れ印博群書と字比増換附益
抄と撰と

淨感

法中

醫業れ外傳哥と著古今と傳授し
抄と撰とす

淨忠 きんちゆう

法下 けふか

正親町院淨忠まぎまろのわんときいお年ねん義ぎ眼がん不ふ例れい

れといふ少すくしもりし淨じやう茶ちやとと個こ進しん一いつ則すなは

金小双紙いりこさうしとと撰せん

見玉 けんぎよく

金其寺 きんさい

泉涌寺いづみやう一いつ便べん

自栄 じえい

法金剛院 けふこんがう

如子

淨勝 じやうじやう

博ひろ方かた書かきとと字あざりり何なにとと醫い術じゆつ不ふ精しやう

織オリ田た信のぶ長なが病やまひとと内うち山やまれれとと標しるしととまましし

信のぶ長なが川がわ命いのちとと石いし列りやく一いつととろろ

彼かの困こま守まもりり病やまひとと藤ふじ原はらとと達たつ源げん方かた子こ

女子

浄元 じやげん

法眼 じやげん 母八細川越中忠興が女

松井依波が康之の女

元和七年十二月十一歳少く又此

業をほす

白蓮院殿とよび

將軍家よりお湯一斗とくま川に

寛永元年 巫一法眼を叙し時り

十四歳

同十七年馬五番頭豊氏中風

と患療治を浄元より求故に彼分國

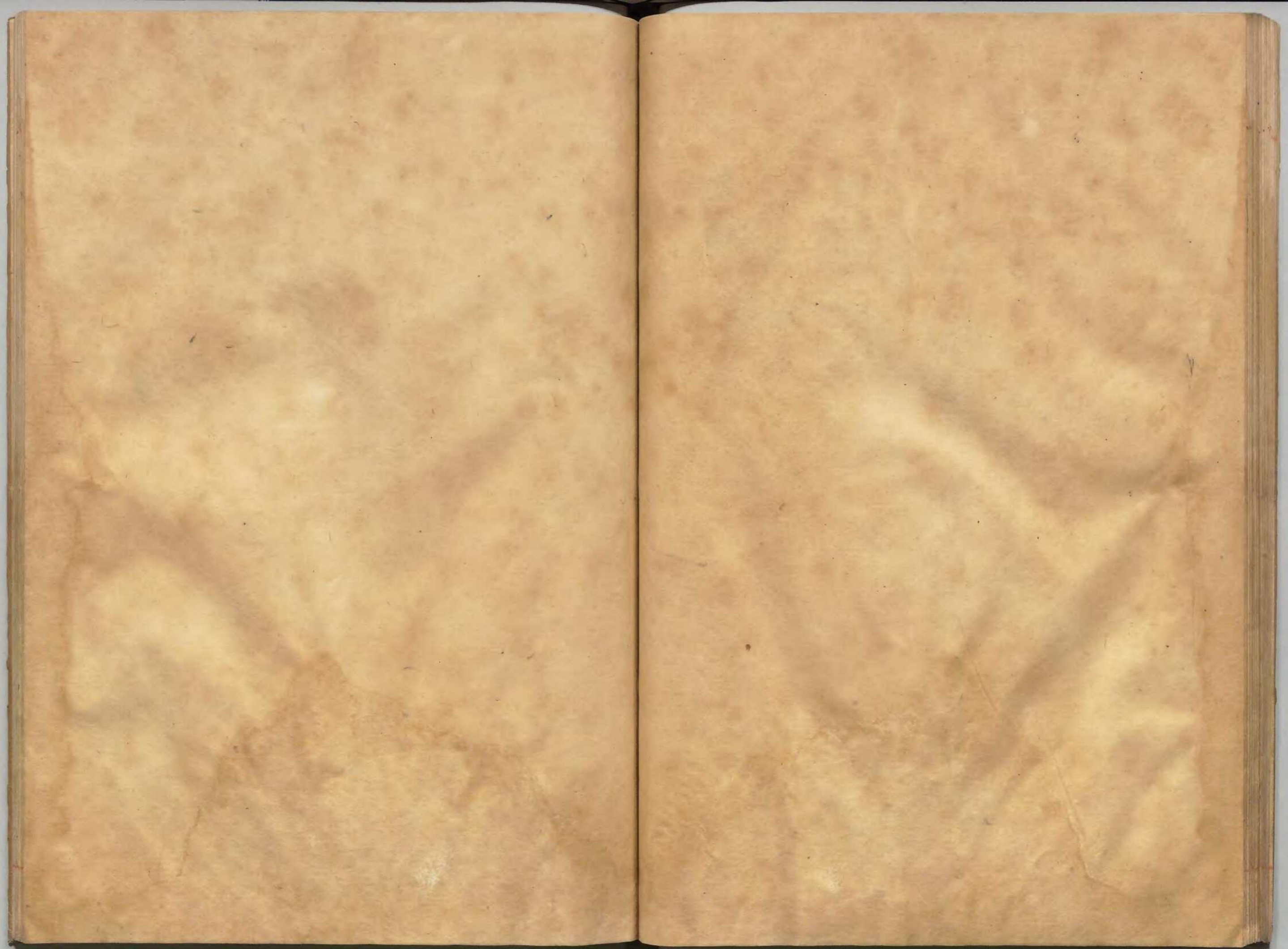
純後より珍治よりありて時

治し翌年又月豊氏病専致し向

以ふれと治しふき旨奉書と治り

すし純列よりふれと治し大知と

の事より安よりとひく豊氏に



宇多源氏

吉田

● 秀義

休本三郎

十一歳に身六条乃判官為義此程子

口打ら

保安三年元服之時為義右少将

号と授

保元平治の間に馬頭義朝と志保の
 忠義と争ひつゝ後醍醐天皇に大御所
 此の間に信長と義朝と海内を平治す
 時より梶野六人とも軍功あり
 元暦元年七月十九日侍領あり
 源平合戦れとも秀義はあ
 戦ひつゝ法敵九十余人を斬
 遂に討死す時より歳七十一

定總 まこと

左郎 法五位下 左衛門尉

敬秀 よしみ

六郎 法橋 佐々木吉田法橋の号
 吉田 吉田を以てし
 稱号あり

義基 よき

源左衛門尉 みなもとのざえもん

泰秀 やすひで

四郎

左衛門尉

秀信 ひでのぶ

六郎

左衛門尉

秀長 ひでなが

長秀 ながひで

二郎

秀氏 ひでうぢ

二郎

左衛門尉

秀深 ひでふか

右衛門尉

宗深 むねふか

左衛門尉

秀春 ひではる

四郎左衛門尉

沖春

少壯れより武ありて本國と在洛陽
よりいつくましく庶苑院義満に賜をばら
し義持より信子晚年に及る方術
と嗜まり其子とて城を築け角倉此
地より居るに氏族をたすむ
飛可れ地とて川を呼んで角倉と稱す
應仁二年八月十六日死す歳八十五

宗林

將軍義政より信子
某年七月二十九日死す

宗忠

天文二年三月十日死す

浄林

栄可

見男女二十口人あり

系柱

意安

日華子に号し五代に陳日華宗に開
宝年中に諸家の本草と撰一寒
温のわら性味とよきまよ宗柱も又

よく和薬を辨知し故に世人に和
薬と別号する

天文八年入明に使僧天竺素長
兼亮より少くも大明に渡り
明人系柱が診治し神薬をわら
意安と稱し是醫者之意なりと
義を致しなり梅崖称意れ二大字を
書す

日十六年信使の僧兼亮の

曲庵 きょくあん

大明のあはれふはり明は帝王の業を
献しき醫者と異朝よりあはれ
おのりく方書とすけいふく帰朝は是
よきまふれつて中子オキくはるみく
とのほろろ一家となれりつらゆへり
後簡意安とりつら号そと
元龜三年十月二十日一死

等玄 とうげん

光好 くわうこう

後一ありあきくはり
しめらあへく信長秀吉よはへ
しき宗物 かみむねもの

東照大権現は幕下よりあはりつら
わくは唱しつら
長八年 今とけく安るは

舟と通と

同十年 台命と受けぬりて大

井川より丹波より水沼と結と

舟と通と

同十二年 治令小らく少のみ

富士川と通と後列 岩洞と中府

小と通と 田原とくその利とゆら

同十九年 富士川 壱塞とく少の

事ありはど時り 治令ありと

子以とのり以病ありゆん我れ子と之
又アツツりくゆき水と流す
舟と通と

同年七月十二日死に歳六十一

之之

与一 判發とく貞光と名はく字ハ

子元 素庵と号と

幼より妙喜院 懼富と号と

儒風と同姓命れ字一通一見
能書の美云ありり以跡を継ぐ

大徳現一はくくくく

長十九年大坂陣陣れと軍

是名具名と船よはくく京より御見

一達一浣河よりいふ大坂一

一軍用と賑と一約命と

うけらるり水流とそめ小船と

一橋と一申流と截と長橋と

ゆきぎ井せとゆき院と築く

会馬利と侍事りりともか

一凱旋れ後れ切よめ流川

色をり後とげと心

元和元年 大命と

浪列 本曾山れ材本運送れ後と心

同年 江列坂田郡れ代官と

同二年

名徳院殿江戸れ城とあ

予の御時
約命とけり
富山より材木とせり

同九年六月廿二日死に歳六十二

長田

官内卿法平

大膳亮某の家督とせり

東福門院より法平とせり

東福門院より法平とせり

御養女とて
安否とせり

寛永十八年

竹茂表御

殿中より候

法平より叙

侍海老

同十九年六月

日十九年六月

歳六十五

三晚 さんご

又此業を継ぐ大膳亮と稱す

玄紀 けんき

与一

又此造職を継ぐ

白徳院殿とむ

將軍家とむ

歳服 さいふく

午次 ひな

又此職を継ぐ受く尾張大細を
義直卿ノ子とみえ本堂山比村本
を運送す

歳辰 さいしん

広尾門

ゆれをよむしめしめゆ

大権現宗物として紫雪を候製せしめ

るよよもかゝら和劑局方なをりて

個合志く是と候も我れのなら他は醫

師もまことこれ製法り効

ある附南蛮此和月朝一と得在れ言一

尺竹引く側栢れと成れと候も

ほくく我れかゝらと成れと未賊栢葉ふ

のあいはらちなり者り候し

大権現是と奇なり少く候諸醫り同

予久しとあらく知る人外宗物い

くけ栢枝を定く瑪瑙れ花なる入

是と本單綱目一考ははるこもく

あいはらちと我れ後異玉り珊瑚枝

と候もこれと本朝よけ也あはる

大権現子けり我れ形と換り白ひく

もろくは醫官り命令くも衣を

よめりよとこれと諸醫り候を

し續紀より電り跨藍より本有世
司令下から学明の古と秘有は理と
知も実と蹟奇効靈跡しより書畫
るすずくより又和醫傳略と撰
朝鮮中刑部負外郎兼沆序と法
そつていしく地れ道ともの鳴老代今
足明ら後り継ぐ前と光り法師
れ大成と集るれ今此法眼意安され
りりそ術する事重り長業改約

一取れ地を救子百載れよりあらし地
倉公より下るされと歌人せし
程之ほり居もこのりされあり
中重せし事略のれと且又
抄し向可れ儒経醫書とより若子
敬せりかこなりれ下向のり
運氣とくりりり故り運氣供編
れ湯及び梘要れ湯瀉刻れ湯若と修

侶庵

大持現薨御所のり

名徳院殿よりほくくくまけりて来北

ものごころきく 御命とけ

有より大病と療と終よま命とけ

とふすよとる 是よりよるく

恩遇又あり

元和八年六月廿七日卒よと歳三十九

あらしよと可れ家乃書吉氏方本年和

名醫字彰履等あり

宗成

長庵

宗陳

傳庵

宗恪

意安法橋

生國後河

母芝山監物女

元和九年十一歳より家茶葉とけ

名徳院殿とよい

將軍家了取湯といき——くま川

寛永十七年六月 御命きんめいとうけい

しり醫官いかんふ人とからく 殿だん申しん小

侍し多たくく御書ごしょとしとし

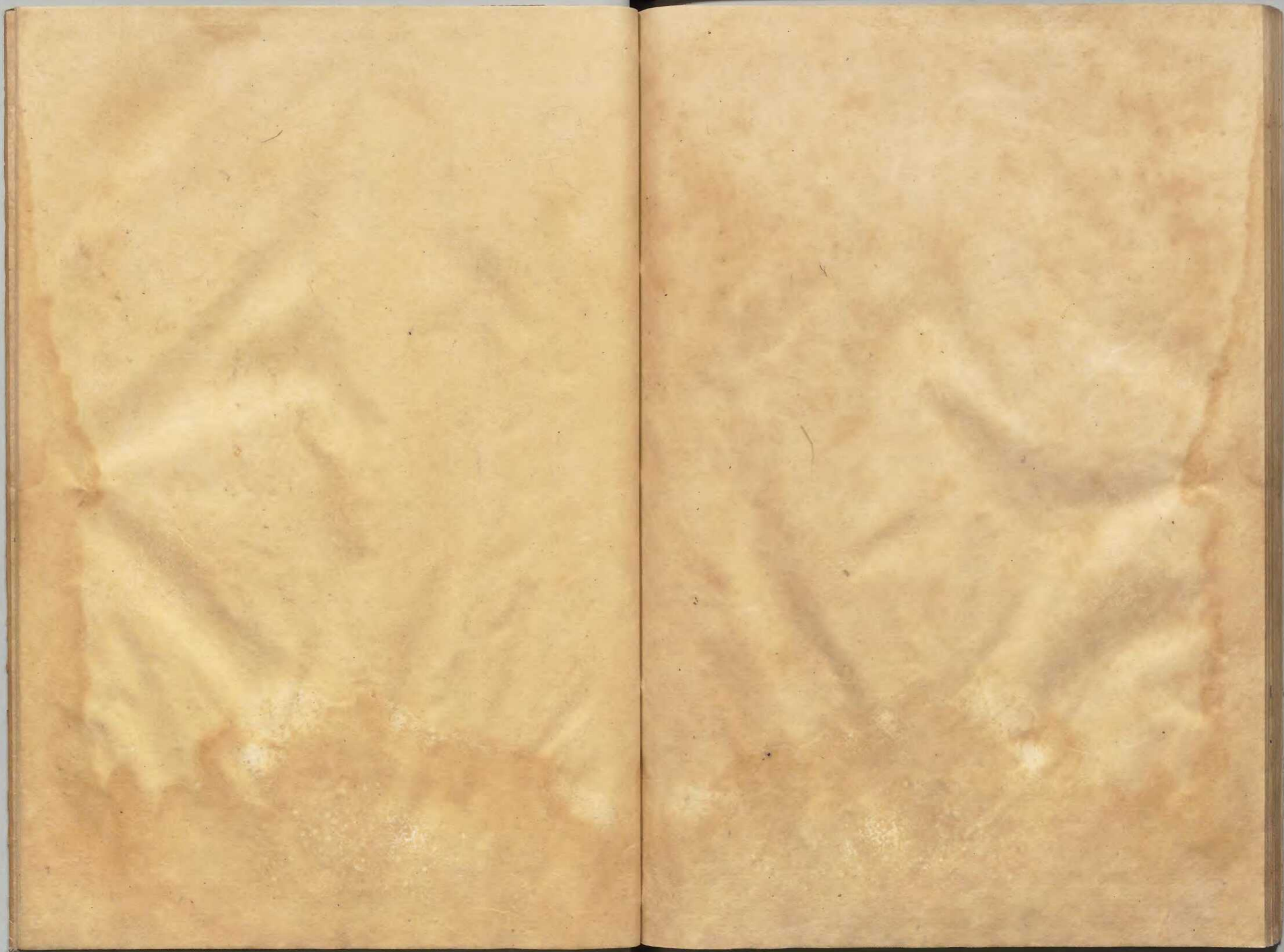
同年朝鮮しんせん由よりり故こよりり有ありり良業りやう校

十と移しとしとし

日十九年又朝鮮しんせん此業このわざ種たね校がく十味じまいと

たたままよよけけ外の津つ業わざ苑えん此この佳よ後ご毎まい後ご願ねんと

家いへ以も紋もん鳩つばき酸すい草そう



東助

南倉

弘晴

南倉玄蕃

中園伊勢

勢川山田之方いせの伊勢園司いせの

流久今川義元いせの流久今川の少輔

後列いせのよいせのひいせのく

大権現いせの一いせの酒いせの者いせの

神祇一義元より日徳馬と稱す
寛永六年四月十六日歳八十九
法衣易屋

専益 せんえき

生園同好

竹田定か法下と醫と字比洛陽
何と伏見と

名徳院殿の御湯

寛永十年江戸の福とくはく
寛永十年二月十八日歳八十四
死

専益 せんえき

生園武彦

寛永元年

名徳院殿

將軍殿より神祇一はくはく

